

蒲生干潟の植物④1

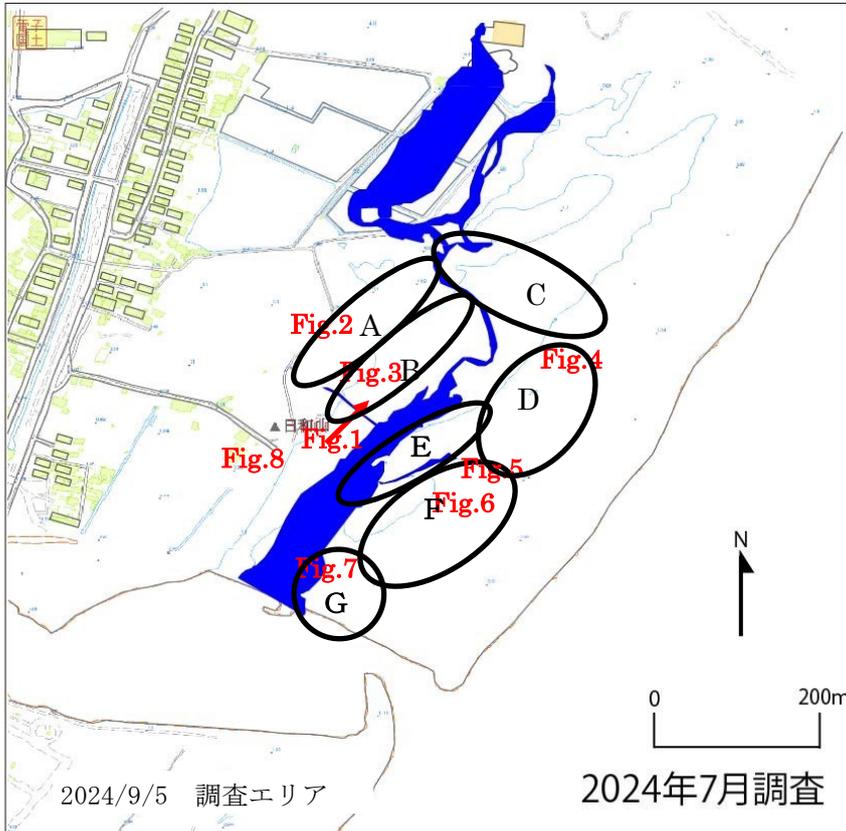


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアDで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 日和山南側で撮影

Fig.8 日和山南側で撮影

調査日時：2024年9月5日（木）10:00～11:00，天気：晴れ

8月に調査できなかったため、9月初旬の調査となった。定点観測では、ハママツナが全体を覆っている。昨年大雨で流失したエリアは今年は流失は見られない(Fig.1)。エリアAのヨシは、先月とほとんど大きさは変わらないが、全体的に茶色く色付いており、先端に近い葉だけが緑色であった(Fig.2)。気候の影響等があるかもしれない。エリアBのハママツナは、点々と群生した塊が見られた(Fig.3)。今までにない傾向である。エリアC～Dの地面を覆うハマニガナがたくさん花が咲いていた。今がピークと思われる。エリアD～Fにかけてウンランが咲き始めていた。蕾もたくさんできていたので、数日後に満開であろう。元々エリアFの南側で群生していたが年々生息範囲が北へ広がっている。エリアFではセンニンソウが1か所に群生しているのが確認できた(Fig.6)。エリアGの汀線沿いに群生するオカヒジキとともにホソバナハマアカザが複数個体確認できた(Fig.7)。昨年まで枯死する際に赤くなった個体があったので、今後の変化を注視したい(Fig.7)。日和山南側で見られたテリハノイバラは、前回新たに出始めた個体が順調に生育しているのが確認できた(Fig.8)。日和山北側のハマナスの花も確認できた。

(宮崎佳彦)